

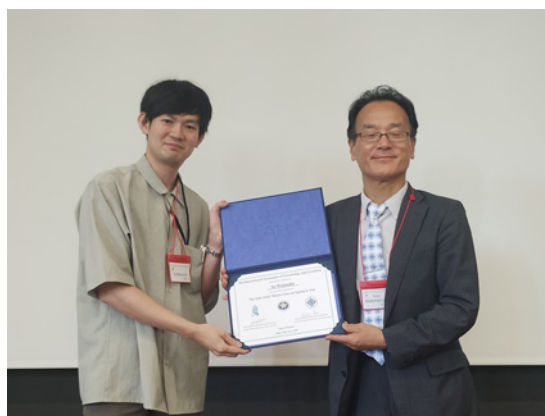
IAGG マスタークラスに参加して

渡部 創

(日老医誌 2025 ; 62 : 115)

今回の IAGG Master Class on Ageing in Asia は、コロナ禍を経て実に 5 年ぶりに日本の東京大学で開催されました。日本をはじめとして韓国、中国、シンガポール、フィリピン、インドなどアジア各国から若手の老年科医の先生がじつに 44 名も参加され、大変盛り上がりを見せました。

3 日間のカリキュラムで、Lecture, clinical case session, poster session を中心とした研修会です。Lecture では講師の先生方から、「Frail prevention」「Dementia」「Polypharmacy」「Sarcopenia」「Delirium」「Depression」など様々なトピックスに関して最新の研究を各界の第一人者の先生方が講演され、その後に discussion が行われます。講師の先生方に直接質問できる貴重な機会でもあり、自由闊達な雰囲気積極的に質問や意見が飛び交いました。以降は各グループに分かれて検討を行います。clinical case session ではチューターの先生が用意された症例について、メンバー全員でプロブレムや介入について検討を行います。poster session も同様に各グループに分かれ、10 分程度の発表時間を用いて、自身の研究内容について発表（ポスター/スライド）を行います。ドラッグデリバリーシステムといった基礎研究についての研究から、抗血小板療法の副作用、家族の介護負担といった臨床研究までさまざまな内容で、年次によっては case report の先生もいらっしたそうです。どちらの session においても真剣でありながらも優しい雰囲気でした。また指導担当の先生も Lecture に参加された著名な先生が務められていることもあり、自身の研究において非常に参考になるアドバイスを頂けました。



IAGG の目的としては上記の参加した医師の交流を図ることも大きな目的です。1 日目は全員参加で立食形式、2 日目は 8 名程度の各グループごとの夕食が催されました。国内・国外を問わず、様々なバックグラウンドをもつ先生方のお話を聞くことができ、とても楽しかったです。

IAGG は引き続き来年以降も開催されます。英語が苦手ということで参加を躊躇されている方もいらっしゃるかもしれませんが、私もそうでした。しかし、老年関係の方は皆さま親切です。むしろ自身の英会話能力を伸ばし、各国の先生と交流を図る良い機会として挑戦されるのは非常によいことだと感じました。

最後に、このような機会を頂きました国際老年学協会ならびに日本老年医学会、国立長寿医療研究センターの皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。